

2006年3月期
中間期決算説明会

2005年11月1日
ヤマハ株式会社

2006/3期 上期決算の概要



上期の状況

■ 対前年同期・当初予想(4/28)とも減収営業減益

・売上高 対前年同期 ▲114億円 ……電子機器・金属(▲101)

対当初予想 ▲43億円 ……リビング(+16)、楽器(▲32)、AV・IT(▲25)

・営業利益 対前年同期 ▲98億円 ……リビング(+11)、電子機器・金属(▲81)

対当初予想 ▲6億円 ……リビング(+10)、楽器(▲19)

■ 当期利益は持分法利益の増加により対当初予想増益

■ 上期末在庫は、楽器、AVを中心に対前年同期13億円増加(対当初予想97億円増加)

2Qの状況

■ 2Qは、前年同期に対し、減収営業減益

・売上高 対前年同期 ▲26億円 ……電子機器・金属(▲27)

・営業利益 対前年同期 ▲17億円 ……リビング(+7)、電子機器・金属(▲30)

■ 減産等の在庫調整を実施したものの、楽器、AVの減収幅大きく、在庫削減に繋がっていない。

2006/3期 上期業績



▶ 対前年同期、当初予想とも減収営業減益

(億円)

	05/3 (上期) 実績	06/3 (上期) 実績	前年 同期比	06/3 (上期) 当初予想	予想比	(2Q) 実績
売上高	2,686	2,572	▲4.2%	2,615	▲1.6%	1,331
営業利益 (営業利益率)	242	144 (5.6%)	▲40.6%	150	▲4.0%	75
経常利益 (経常利益率)	283	213 (8.3%)	▲24.6%	180	+18.3%	97
当期利益 (当期利益率)	▲61	165 (6.4%)	-	120	+37.5%	67
持分法損益	56	85		56		32

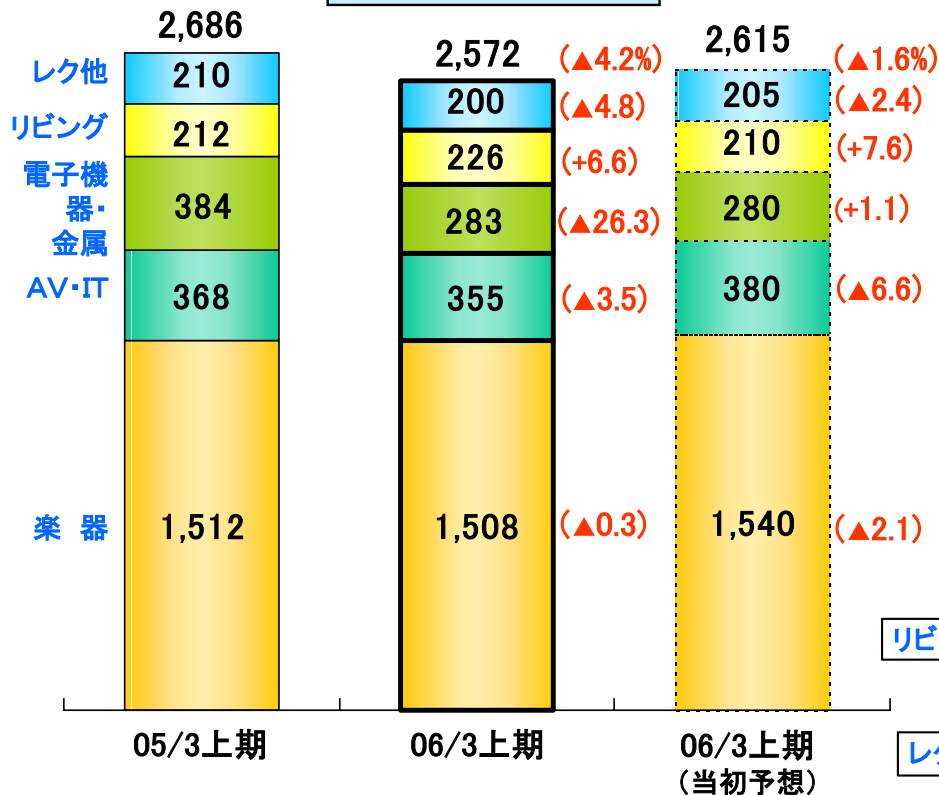
為替レート

売上高	US\$	110	110	105
	EUR	133	136	134
利益	US\$	110	110	105
	EUR	132	134	134

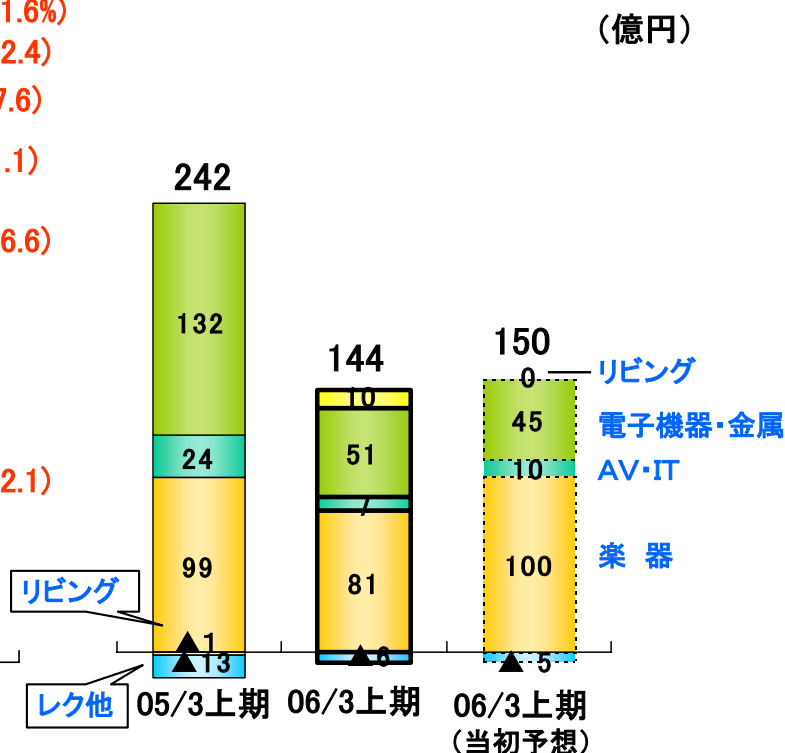
2006/3期 上期事業別業績



売上高



営業利益



()内は前期比
または
当初予想比

前年同期との比較での為替影響は+15億円
(楽器+12億円、AV・IT+3億円)
また、当初予想との比較では+33億円
(楽器+25億円、AV・IT+8億円)

前年同期との比較での為替影響は+7億円
(楽器+6億円、AV・IT+1億円)
また、当初予想との比較では+1億円
(楽器+7億円、AV・IT▲5億円、電子機器・金属▲1億円)

2006/3期 通期業績予想



▶ 通期売上高、営業利益を下方修正

(億円)

	05/3実績			06/3予想			伸び率 (当初予想)
	上	下	計	上	下	計	
売上高	2,686	2,655	5,341	2,572	2,793	5,365	+0.4% (5,460)
営業利益 (営業利益率)	242	115	357 (6.7%)	144	181	325 (6.1%)	▲9.0% (370)
経常利益 (経常利益率)	283	130	413 (7.7%)	213	202	415 (7.7%)	+0.5% (425)
当期利益 (当期利益率)	▲61	258	197 (3.7%)	165	125	290 (5.4%)	+47.2% (290)

持分法損益 56 35 91 85 52 137

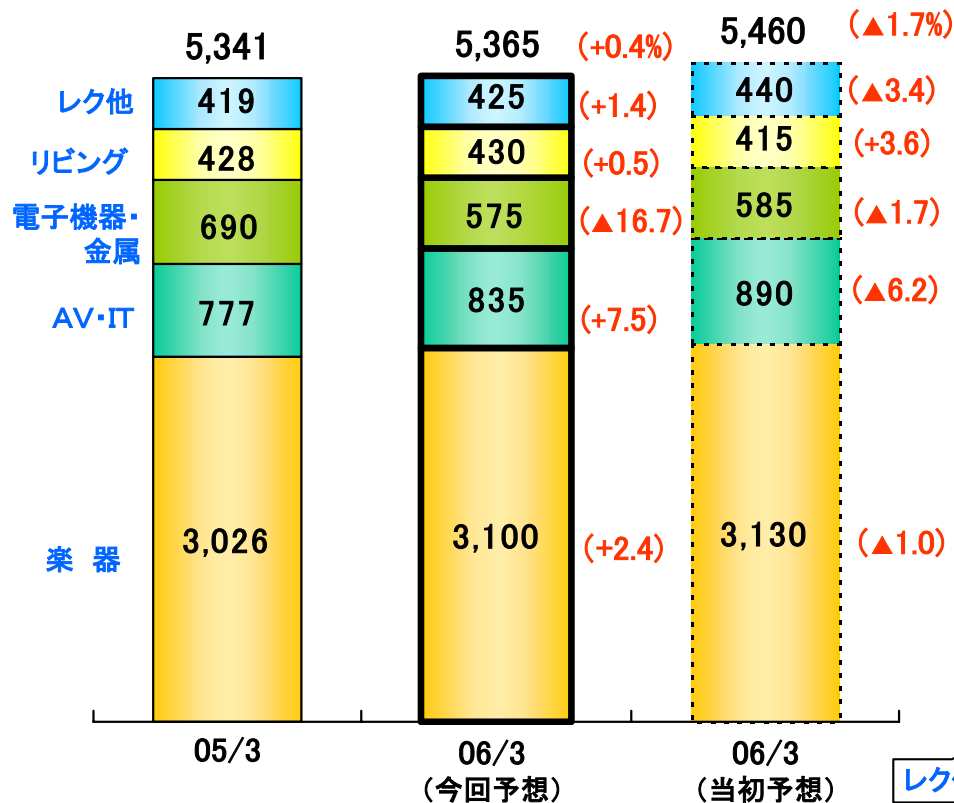
為替レート

売上高	US\$	110	105	108	110	105	107	105
	EUR	133	137	135	136	134	135	134
利益	US\$	110	106	108	110	105	108	105
	EUR	132	134	133	134	134	134	134

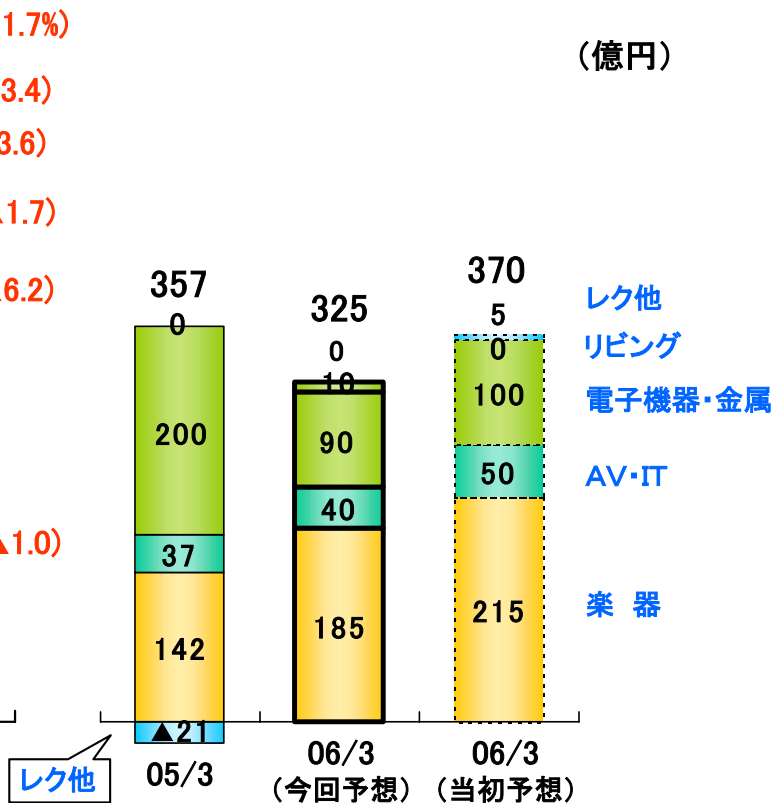
2006/3期 通期事業別業績



売上高



営業利益



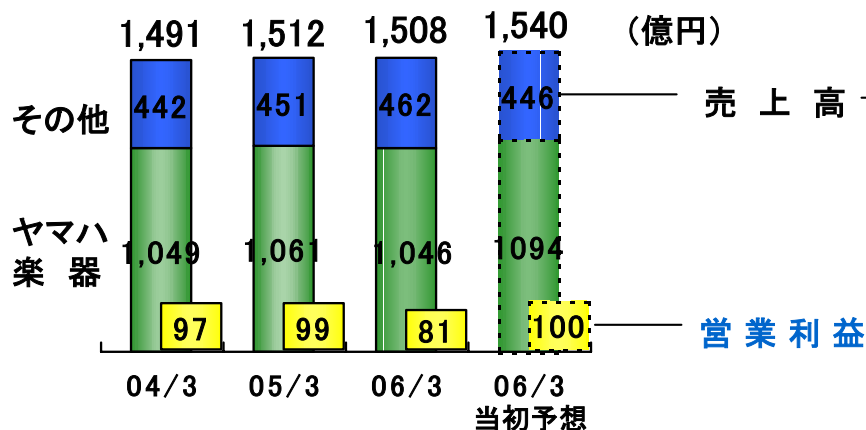
()内は前期比

前期との比較での為替影響は+5億円
 (楽器+6億円、AV・IT▲1億円)
 また、当初予想との比較では+36億円
 (楽器+27億円、AV・IT+9億円)

前期との比較での為替影響は+8億円
 (楽器+5億円、AV・IT+3億円)
 また、当初予想との比較では+2億円
 (楽器+8億円、AV・IT▲5億円、電子機器・金属▲1億円)

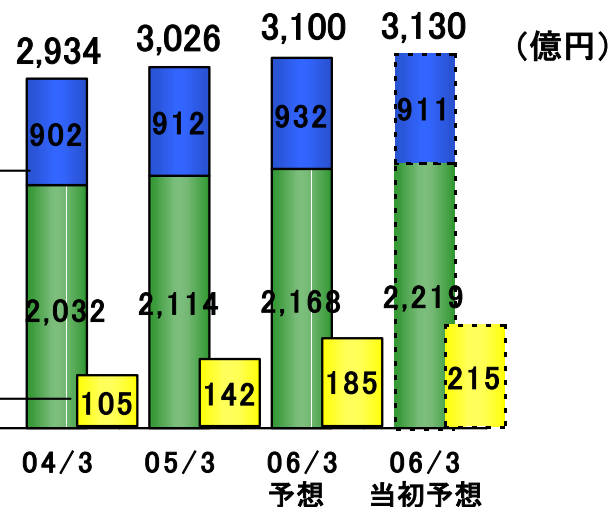
上期の状況

- ・対前年同期および当初予想減収減益
- ・為替影響を除いた実質売上高は前年同期比1.1%の減収。需要一巡に伴うエレクーン大幅減収（89億円→49億円）が主因
- ・当初予想比では実質3.7%の減収。国内エレクーンと欧米電子楽器が予想を下回る。
- ・韓国は好調持続、中南米順調
- ・営業利益は売上構成の変化による売上総利益率の低下、物流コスト増加などにより対前年同期、当初予想とも減益。
- ・上期末在庫は売上計画未達により、対前年同期、当初予想とも増加。特にアメリカでの在庫引き続き高水準



通期の状況と下期の重点施策

- ・通期業績予想を下方修正
売上高 3,100 億円、営業利益 185 億円の計画
- ・欧米年末商戦に合わせた新商品の確実な市場導入
高機能キーボードTyros2、デジタルミキサーM7CL
- ・欧米を中心にCAビジネスの一層の拡大
- ・「STAGEA」エントリーモデルは3月出荷予定
- ・在庫水準適正化
- ・製造構造改革のスピードアップ
- ・中国市場政策推進



中期での成長と収益力の強化に向けて



1 成長市場への布石

中国市場

- ・ヤマハ音楽教室布石

11月グランドオープン → 2010年までに、100会場、20,000人

- ・ピアノ販売網整備進行

今期末までに60拠点布石予定

- ・杭州ヤマハ増産体制進展

2006/3期生産目標 ピアノ 8,000台、ギター 45,000本



中・東欧市場

- ・モスクワ駐在員事務所開設 (9月)

- ・拡大EU市場直売体制整備 (チェコ、スロバキア、ハンガリー、スロベニア)

2 CAビジネス強化

- ・フランスNEXO社との業務提携 (6月)

今後、システムソリューション展開と業務用スピーカービジネス本格着手

- ・欧州サポートセンター開設 (4月)

中期での成長と収益力の強化に向けて



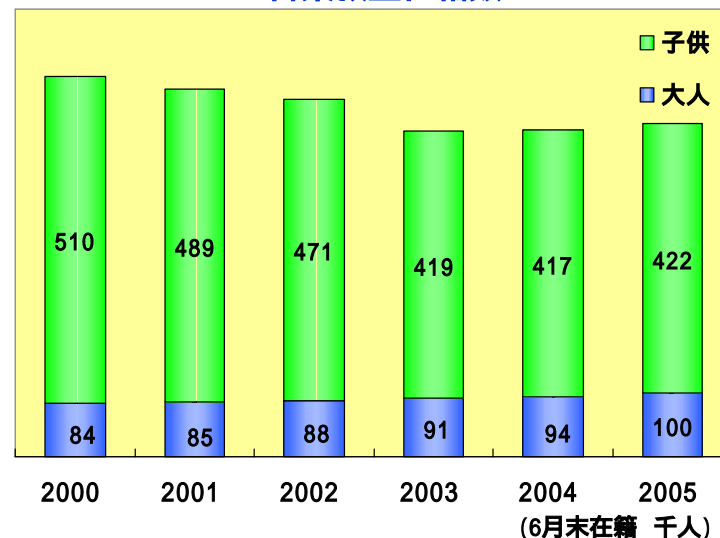
3 国内市場活性化

・音楽教室在籍生徒数増加

子供は15年振りに対前年同期増加。大人は初めて10万人を突破。都市型成人専用教室“コア100”は、中期目標100会場に対して、06/3月末で80会場の見込み。

郊外型新概念教室“ユニスタイル”は、中期目標200会場に対して、06/3月末で60会場の見込み。

音楽教室在籍数



4 コストダウン、生産性向上

・生産性向上施策推進 成果は徐々に現れてきている

TPS活動展開、生産リードタイム短縮(ピアノ 3ヶ月、その他楽器 2ヶ月)

拠点統合、再編の検討開始

コア人材育成(技能伝承)

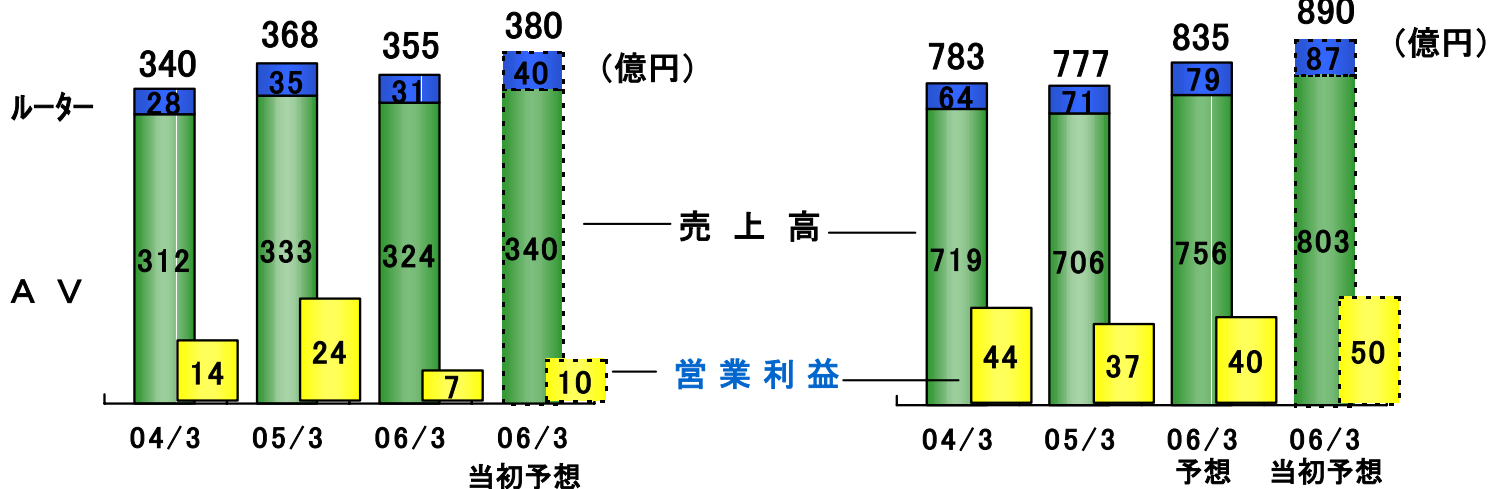
ビジネスプロセス改善(SAP/R3導入)、在庫圧縮PJスタート

上期の状況

- ・対前年同期および当初予想減収減益
- ・為替影響を除いた実質売上高は前年同期比4.3%の減収。国内、中国、アジア市場を中心にホームシアター減収
- ・営業利益は減収に加え、円安に伴う為替損の発生もあり、対当初予想減益
- ・期待のスピーカー「YSP」は出荷順調（上期は23,000台の出荷）
- ・ルーターは競争激化で前年同期、当初予想に対し減収

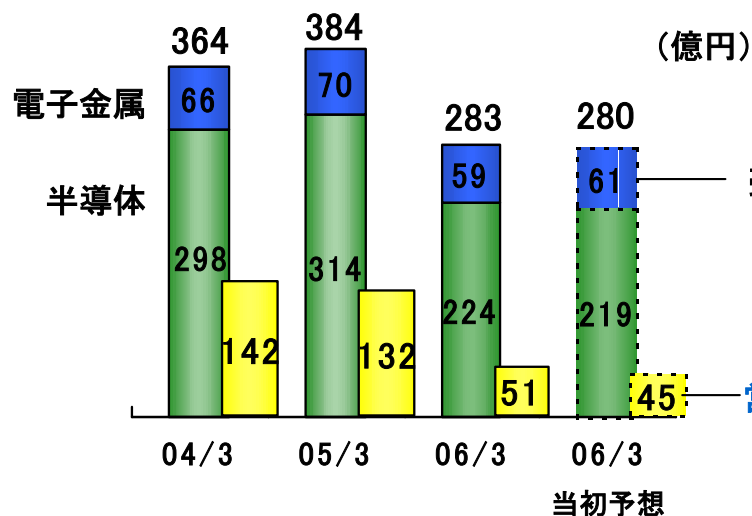
通期の状況と下期の重点施策

- ・通期業績予想を55億円下方修正し835億円の計画 営業利益も40億円へ下方修正
- ・9月発売のYSP2モデルは通期ベースで10万台を超える出荷期待
- ・AV出荷納期短縮への取り組み（当期90日→来期 56日）
- ・ラインアップ拡充とソリューション提案強化によるルーター事業の再活性化
- ・中国を含むアジア市場の販売網整備



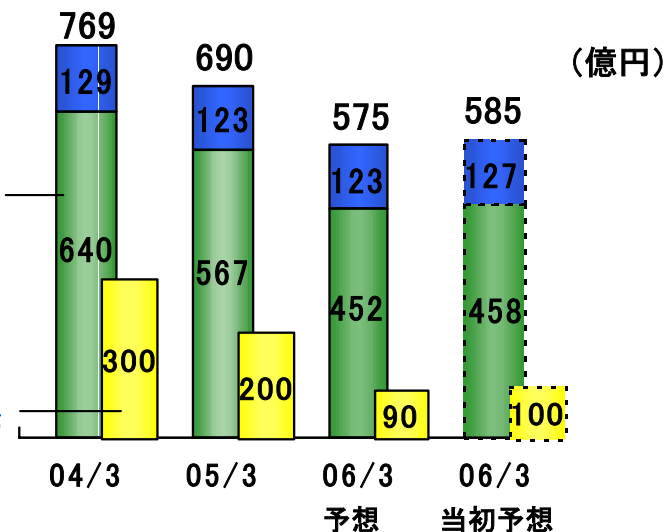
上期の状況

- ・携帯電話用音源LSIの需要減および単価下落で対前年同期減収減益。当初予想に対しては増収増益
- ・6月発売の携帯電話用音源LSI新製品の出荷は順調
- ・中国メーカー向け携帯電話用音源LSI出荷減少
- ・電子金属は夏場以後市況回復傾向が見え始めている。



通期の状況と下期の重点施策

- ・通期業績予想を下方修正
- ・携帯電話用音源LSI新製品の増売によるシェア確保
- ・アミューズメントなど携帯用以外の既存LSIの増売
- ・新デバイスの開発と市場導入
- ・半導体工場0.18 μ プロセス投資継続
→成果は2007年以降
- ・電子金属材料は原価低減継続と銅系コネクタ一材量産化

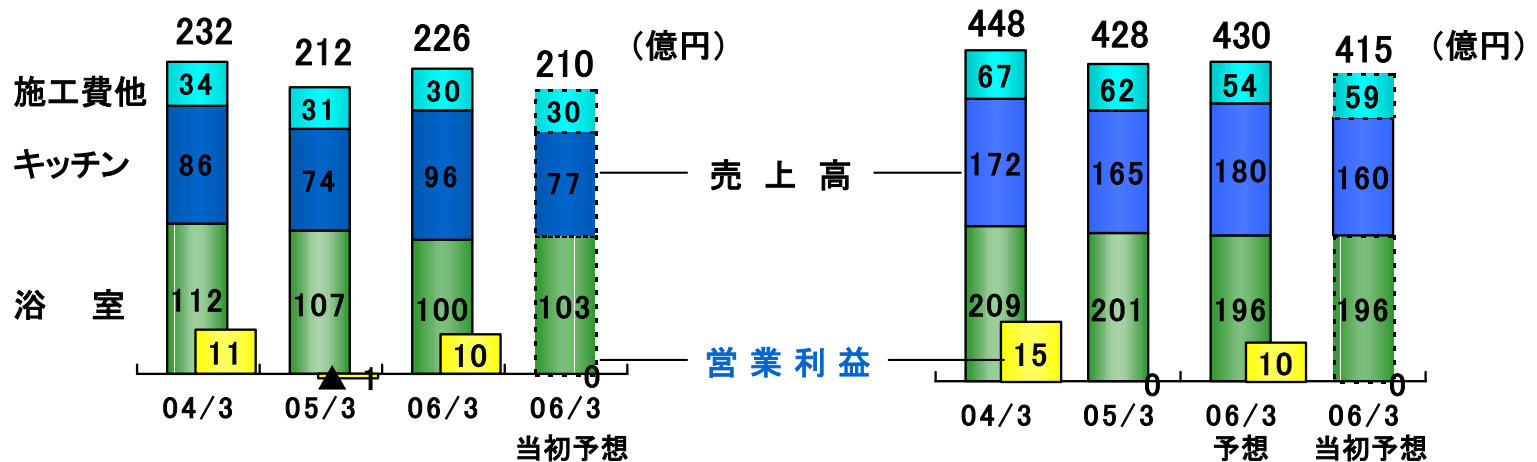


上期の状況

- ・対前年同期、当初予想とも増収増益
- ・システムキッチンシェア回復し、対前年同期大幅な売上伸長
- ・増収に加え、人件費を中心とする固定費減少および合理化効果により、営業利益は10億円を計上
- ・AWE社向け販売順調

通期の状況と下期の重点施策

- ・下期の売上高、営業利益は当初予想どおりの計画
- ・10月発売のダブル保温の浴室新商品等の確実な市場導入
- ・ショールーム拡充等によるリフォームビジネス強化
- ・製造改革の一層の推進による原価低減

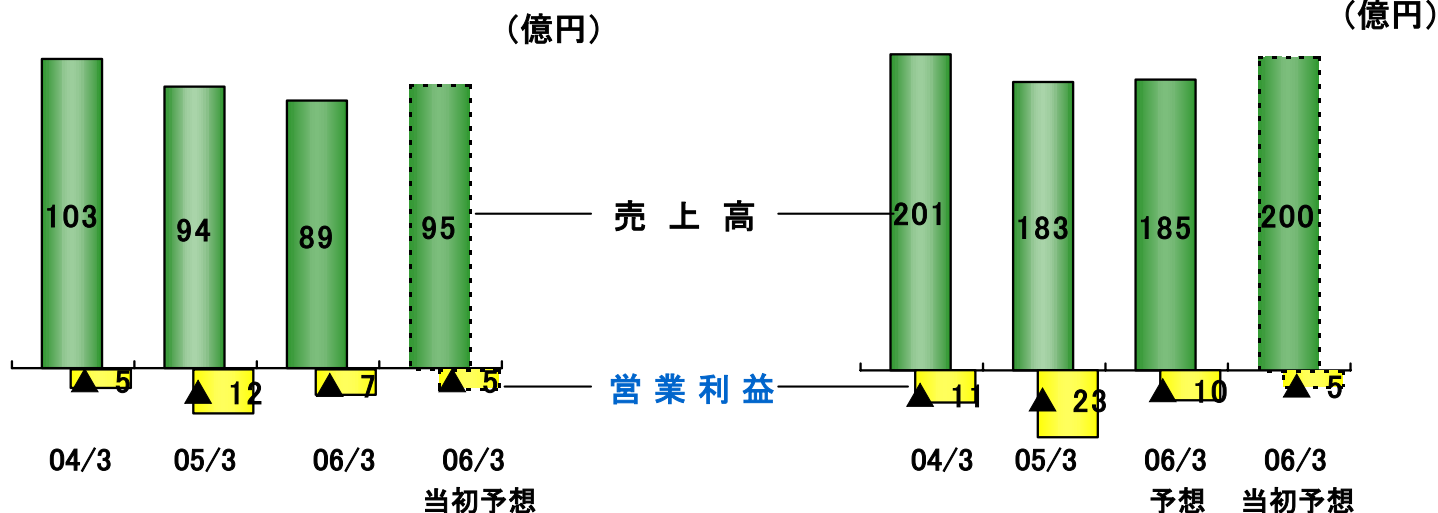


上期の状況

- ・「はいむるぶし」増室効果等により宿泊は概ね堅調に推移したものの、日帰り、婚礼の減少により、対前年同期および当初予想減収
- ・営業利益は減価償却費の減少と経費合理化で対前年同期大幅な改善となったが、対当初予想では損失幅拡大

通期の状況と下期の重点施策

- ・通期業績予想を下方修正
- ・施設ごとに宿泊、日帰りの集客確保施策展開と一層の営業効率向上により収益改善を目指す

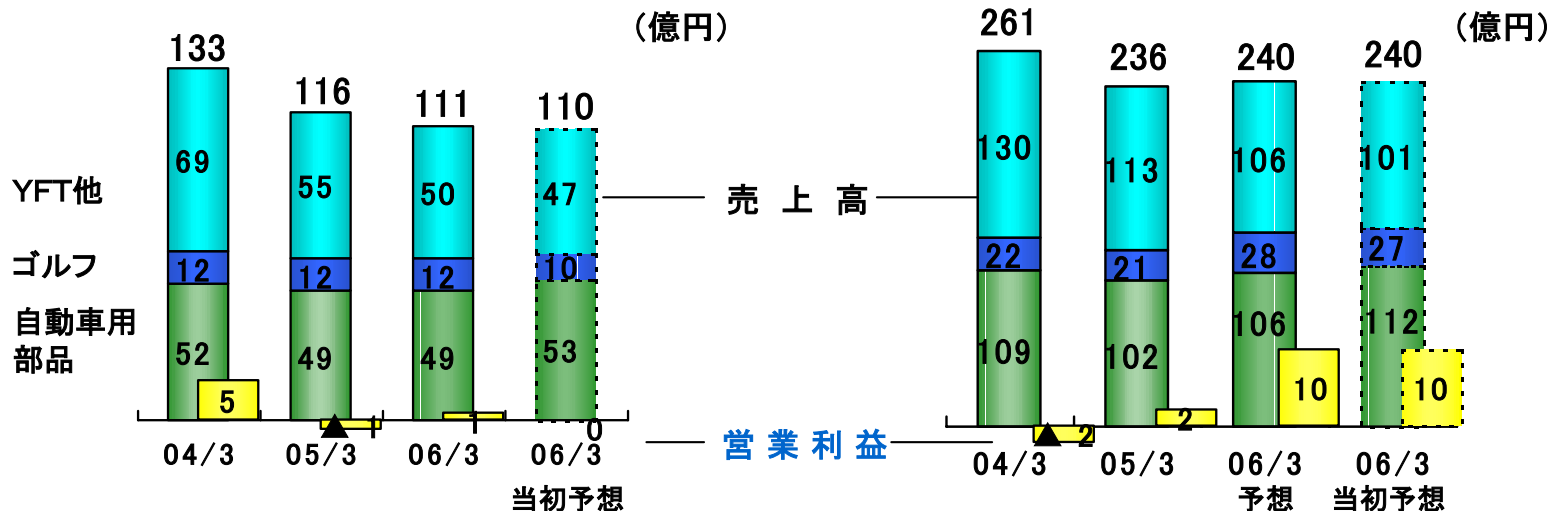


上期の状況

- ・セグメント全体では対前年同期減収。対当初予想では増収
- ・自動車用内装部品、ゴルフ売上高は前年同期並みを維持するものの、部品・金型事業は減収
- ・自動車用内装部品、FA等の製造原価低減効果で営業黒字化を達成

通期の状況と下期の重点施策

- ・通期業績は当初予想どおり
- ・自動車用内装部品は製造原価低減継続と最適生産方法の確立
- ・携帯電話、デジタルカメラ等Mg成形部品の新規顧客開拓と増産に伴う生産能力確保



下期の重点商品(1)



●Tyros2

2002年9月発売以降2万5千台を販売した「Tyros™」の後継機種として、欧州を中心に10月出荷開始(北米は11月出荷)。特に欧州のセミプロミュージシャンに評価された従来モデルに、新たに新MEGA VOICEを搭載。10音色→19音色へ増加、ギター・ストリングス等でよりリアルな音を追加。機能としてはハードディスクレコーダー・プレーヤーにより楽曲の保存能力・再生能力が向上。

欧州での今期販売計画は6千台。

実勢価格:3,599ユーロ



●デジタルミキサー「M7CL」

「Centralogic」による快適な操作性、コンパクト化の実現によりライブなど中規模のSR(音響設備)市場において、アナログミキサー顧客をターゲット。

10月発売後各市場での反響大きく、下期で1,350台を販売の見込み。

M7CL-48 :税込実勢価格 290万円

M7CL-32 :税込実勢価格 240万円



下期の重点商品(2)



●デジタルサウンドプロジェクター 「YSP800」、「YSP1000」

「YSP1」の後継モデル32インチ対応の「YSP800」、
42インチ対応の「YSP1000」の2機種を9月に発売。
内外で約9万台の出荷を予定。

YSP800 :実勢価格 \$799
YSP1000 :実勢価格 \$1499



●AudioEngine (MA-7)

128和音の携帯電話用LSI『AudioEngine™
(オーディオエンジン)』独自のハイブリッドシン
セサイザー、高品質サウンドプロセッサー、低消
費電力Class-Dアンプなどから構成され、着メロを
はじめ携帯電話から発するあらゆる音を高音質、
高機能化。



●システムバス「ダブル保温」

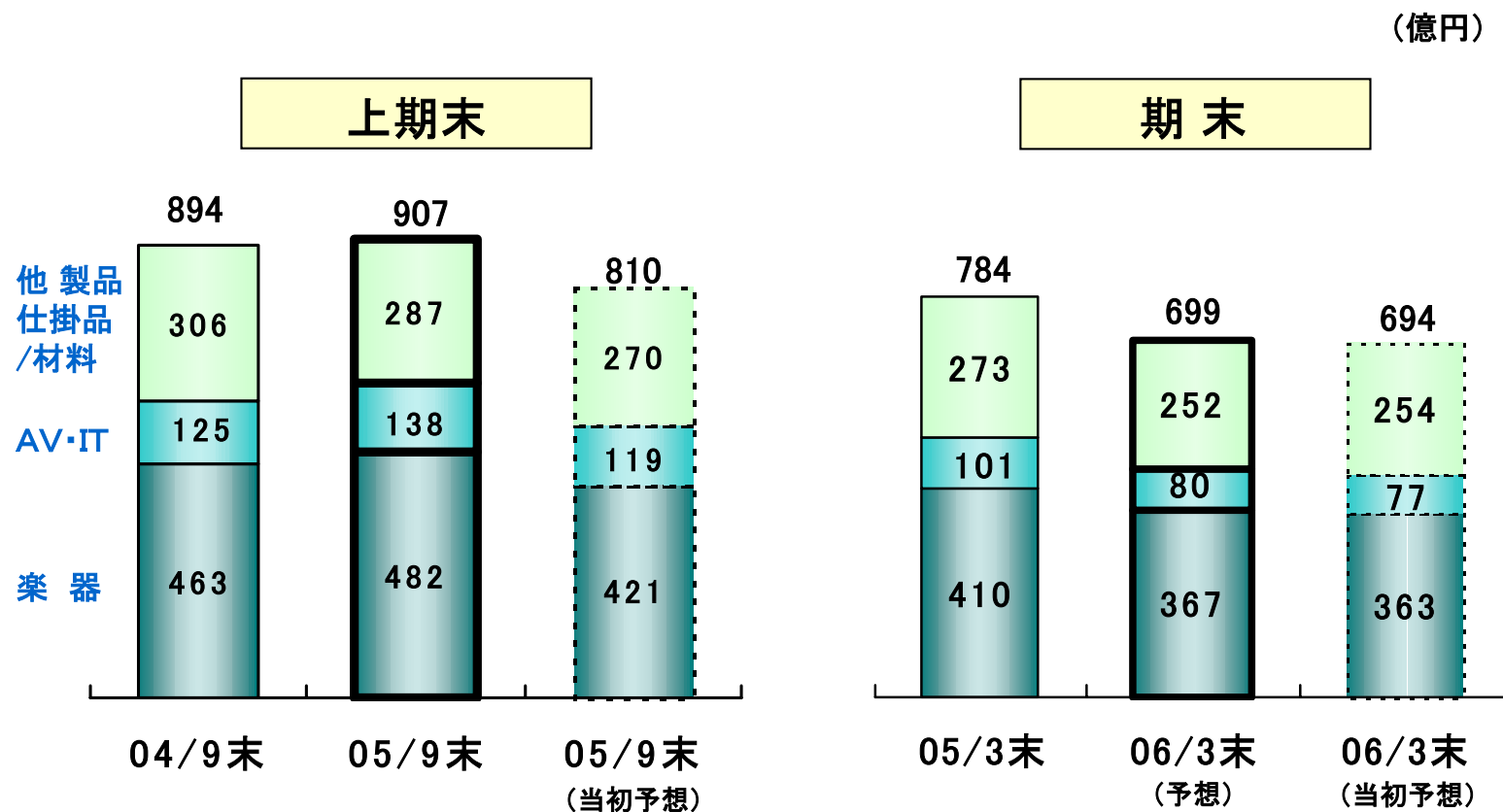
「浴槽」と「浴室」をダブルで保温し、お風呂の温度を長時間
冷めにくくした新しいタイプのシステムバス。10月発売



棚卸資産



➤ 上期末在庫は前年同期および当初予想に対し増加
期末にかけて、在庫圧縮に注力する



付属資料

2006/3期 上期営業外損益、特別損益



	05/3(上期)実績	06/3(上期)実績	06/3(上期)当初予想
			(億円)
営業外損益			
持分法利益	56	85	56
金融収支	1	0	▲2
その他	▲16	▲16	▲24
計	+41	+69	+30
特別損益			
固定資産処分損益	▲4	5	▲1
減損損失	▲325		
その他	3	3	▲4
計	▲326	+8	▲5
法人税他			
法人税等	14	53	53
少数株主持分	4	3	2
計	18	56	55

2006/3期 通期営業外損益、特別損益



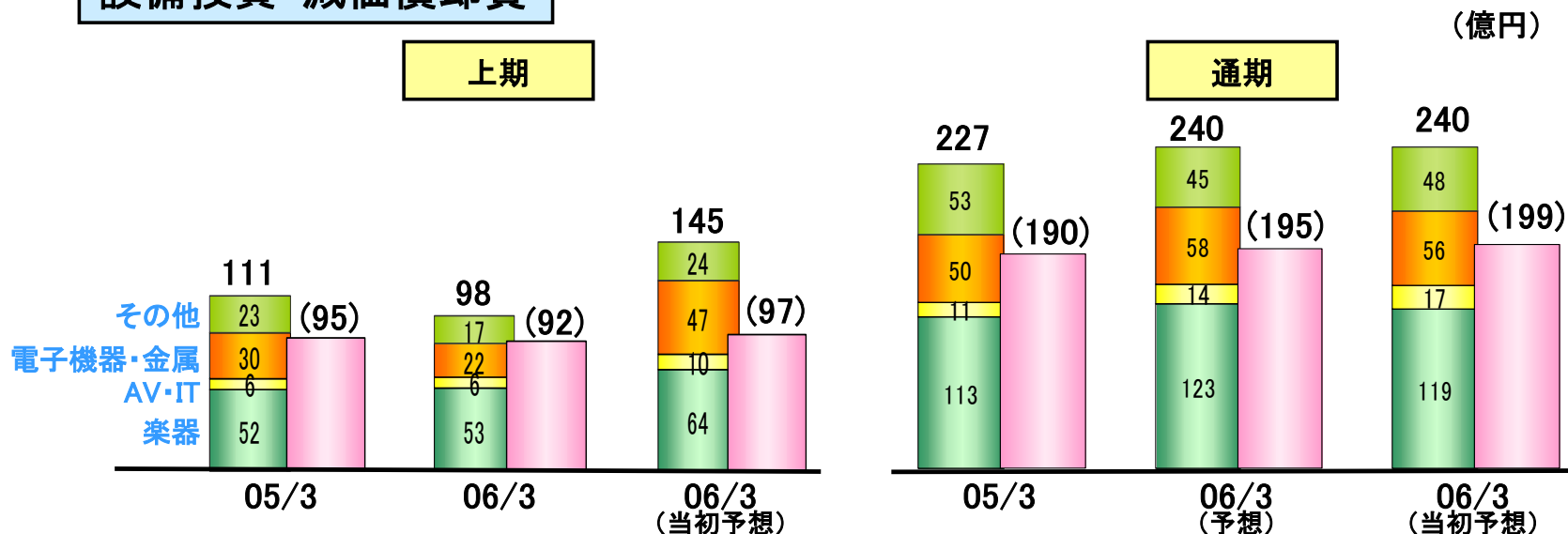
	05/3実績	06/3今回予想	06/3当初予想
			(億円)
営業外損益			
持分法利益	91	137	110
金融収支	▲3	▲6	▲6
その他	▲32	▲41	▲49
計	+56	+90	+55
特別損益			
固定資産処分損益	▲11	0	▲4
その他	▲67	0	▲6
計	▲78	0	▲10
法人税他			
法人税等	134	121	121
少数株主持分	4	4	4
計	138	125	125

・代行返上益 199
 ・資産処分益等65
 ・減損損失 ▲327

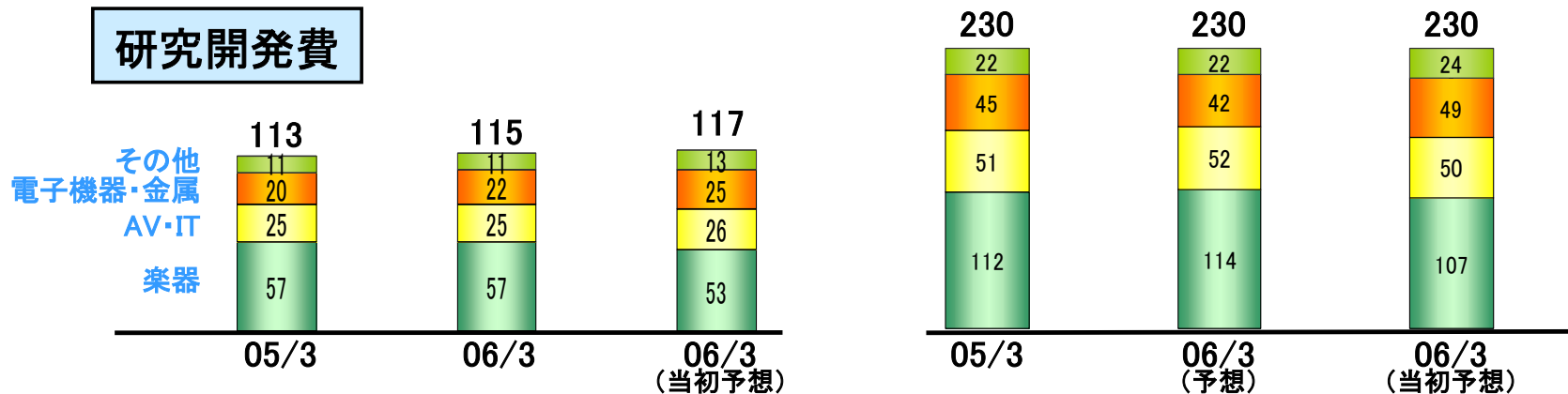
設備投資・減価償却費/研究開発費



設備投資・減価償却費



研究開発費

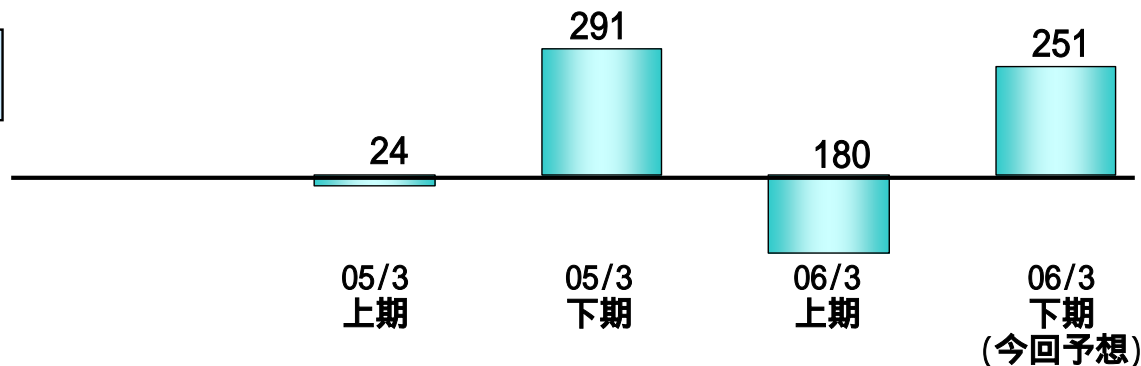


実質有利子負債



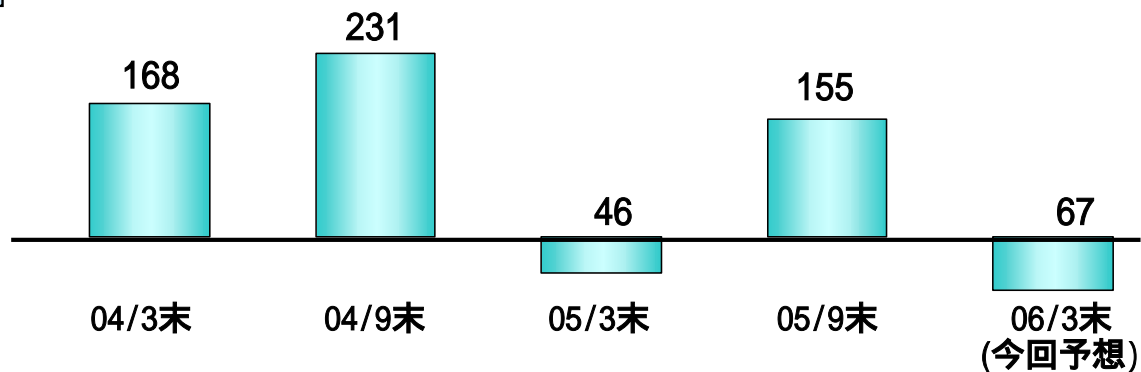
(億円)

フリーキャッシュフロー



実質有利子負債

長短借入金 現預金



* 上記の他に

リゾート預託金残高

04/3末	308	04/9末	296	05/3末	289	05/9末	280	06/3末 (今回予想)	272
-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	--------------	-----

予想貸借対照表



(億円)

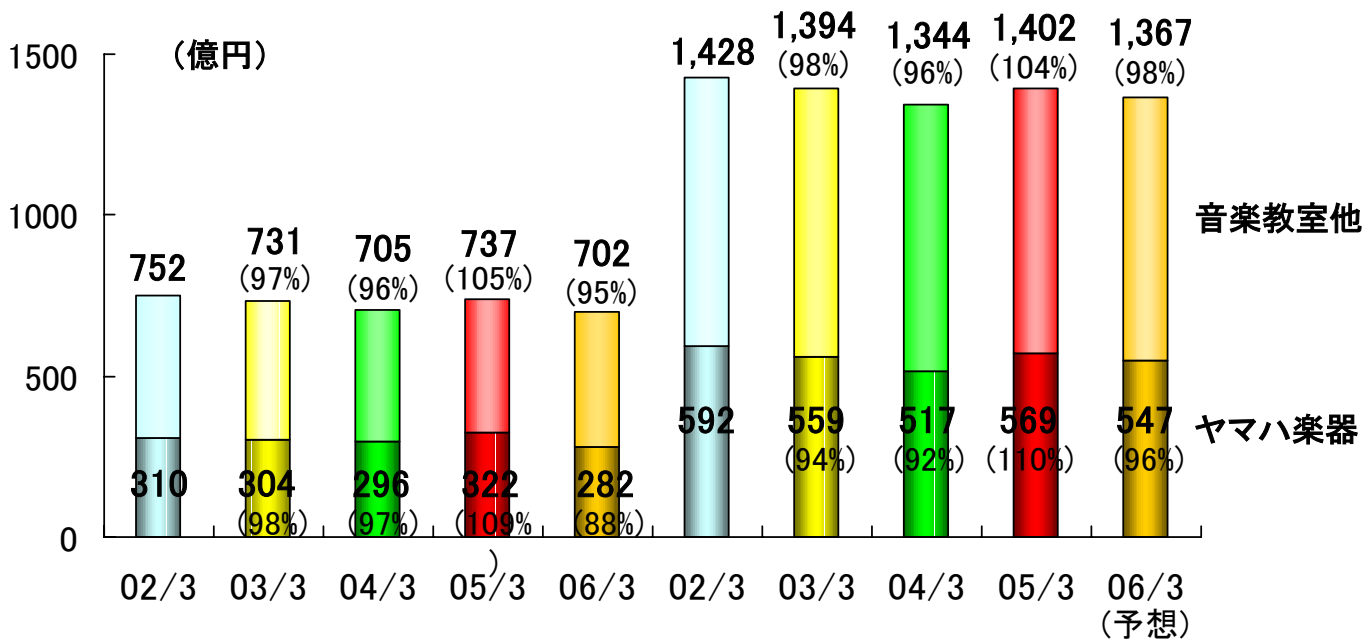
	04/3末	04/9末	05/3末	05/9末	06/3末
現預金	321	425	512	313	330
売上債権	787	858	716	814	720
棚卸資産	721	894	784	907	699
他流動資産	188	248	244	246	223
固定資産	3,070	2,822	2,800	2,938	3,015
資産計	5,087	5,247	5,056	5,218	4,987
仕入債務	399	471	377	418	386
借入金	489	657	466	468	263
他負債	1,602	1,583	1,461	1,347	1,298
資本計	2,597	2,536	2,752	2,985	3,040
負債・資本計	5,087	5,247	5,056	5,218	4,987

* 他負債に少数株主持分を含む

日本市場のヤマハ楽器販売状況



上期の売上高はエレクトーン「STAGEA」の出荷一巡で、対前年同期95%の水準。他の商品群はほぼ前年同期並み。音楽教室在籍生徒数が15年振りに増加に転じたこともあり、今後の反転期待。



上期実績

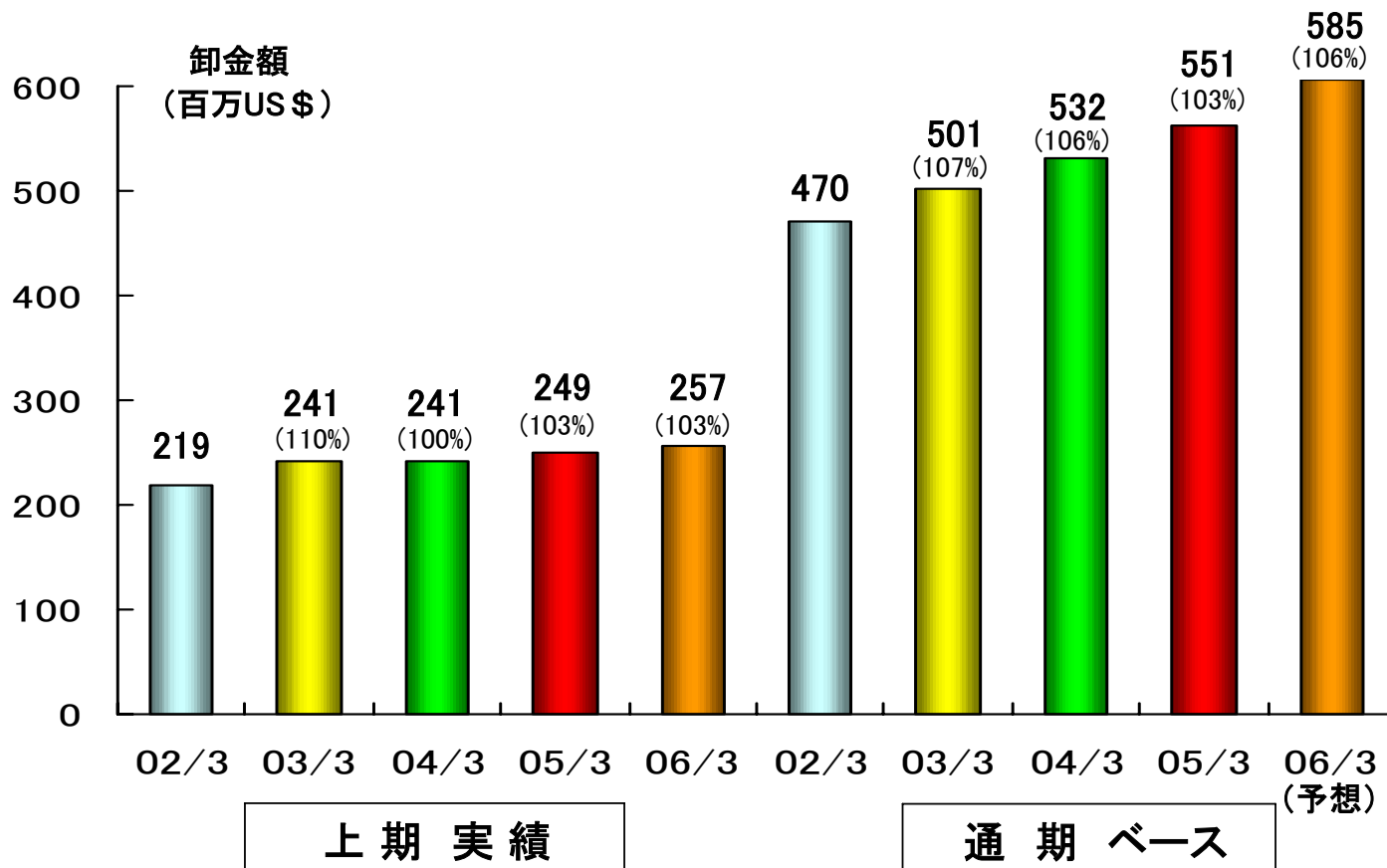
通期ベース

()内は前年同期比

アメリカ市場のヤマハ楽器販売状況



上期ピアノ売上は前年同期比110%と回復基調、PAもデジタルミキサー中心に前年同期比120%と好調。ポータブルキーボードは競争激化で苦戦。ギターも期待を大きく下回る。年末はNEXOスピーカーと新デジタルミキサーM7CLの販売に期待。

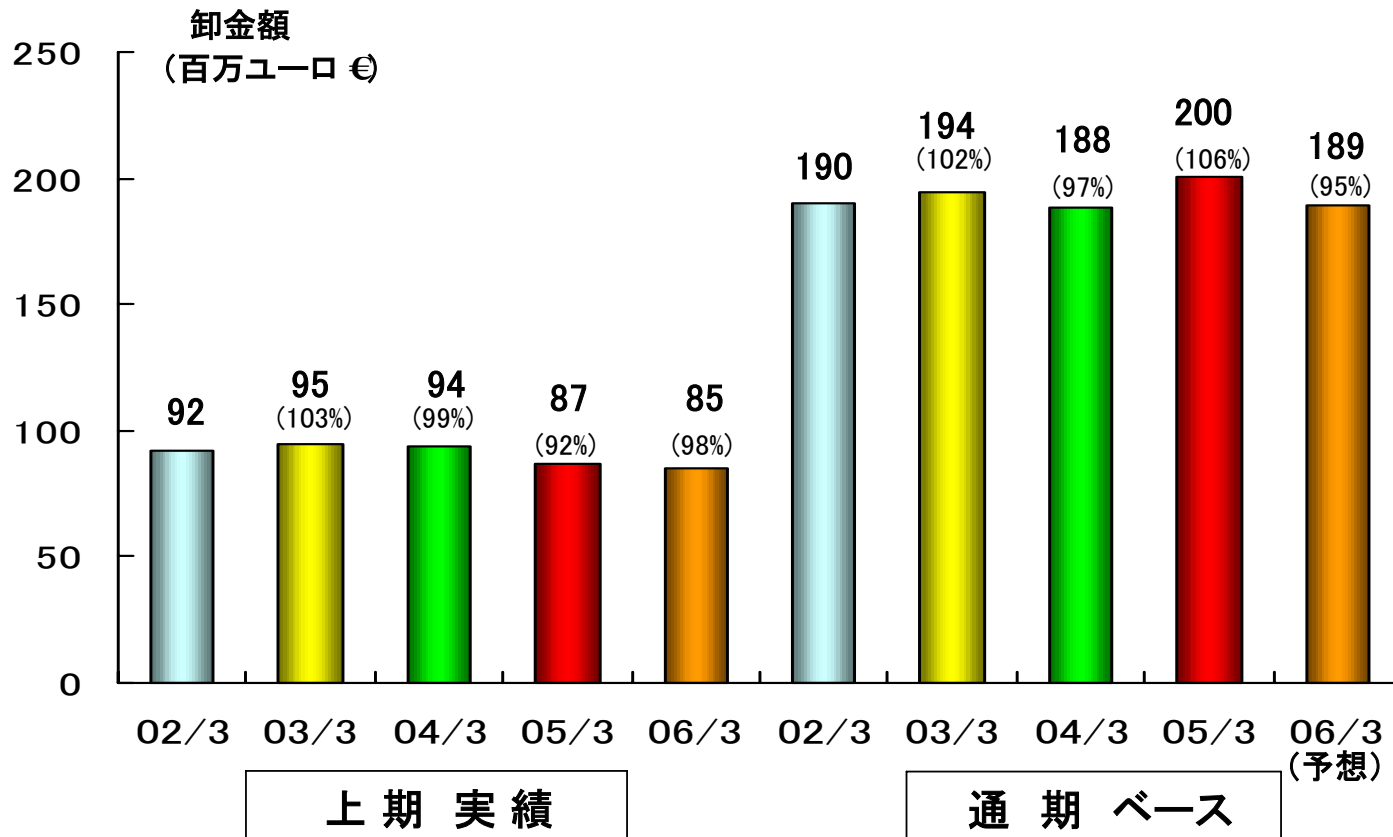


()内は前年同期比

ドイツ市場のヤマハ楽器売上推移



小売状況は全般的に低調。ピアノ以外の販売低迷。ポータブルキーボードの落ちこみ大きい。
年末商戦向けに電子楽器の期待商品「Tyros2」を発売、音質の評価が高い。

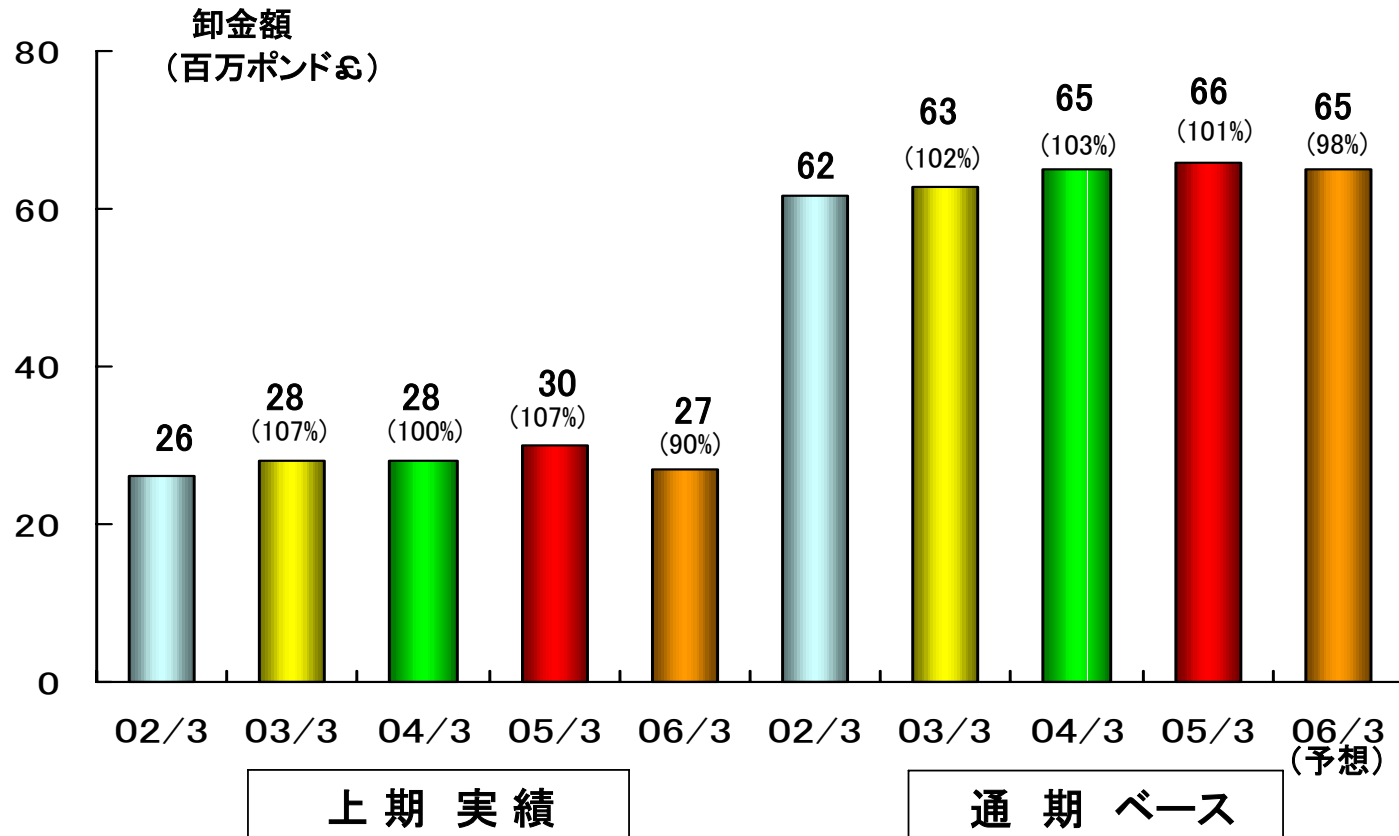


()内は前年同期比

イギリス市場のヤマハ楽器売上推移



楽器市況は依然厳しく、ピアノ・電子楽器・管楽器などが対前年同期ショートする中で、PAが対前年110%と好調に推移。年末は新ミキサーM7CLの大量受注を抱えて挽回を期待。

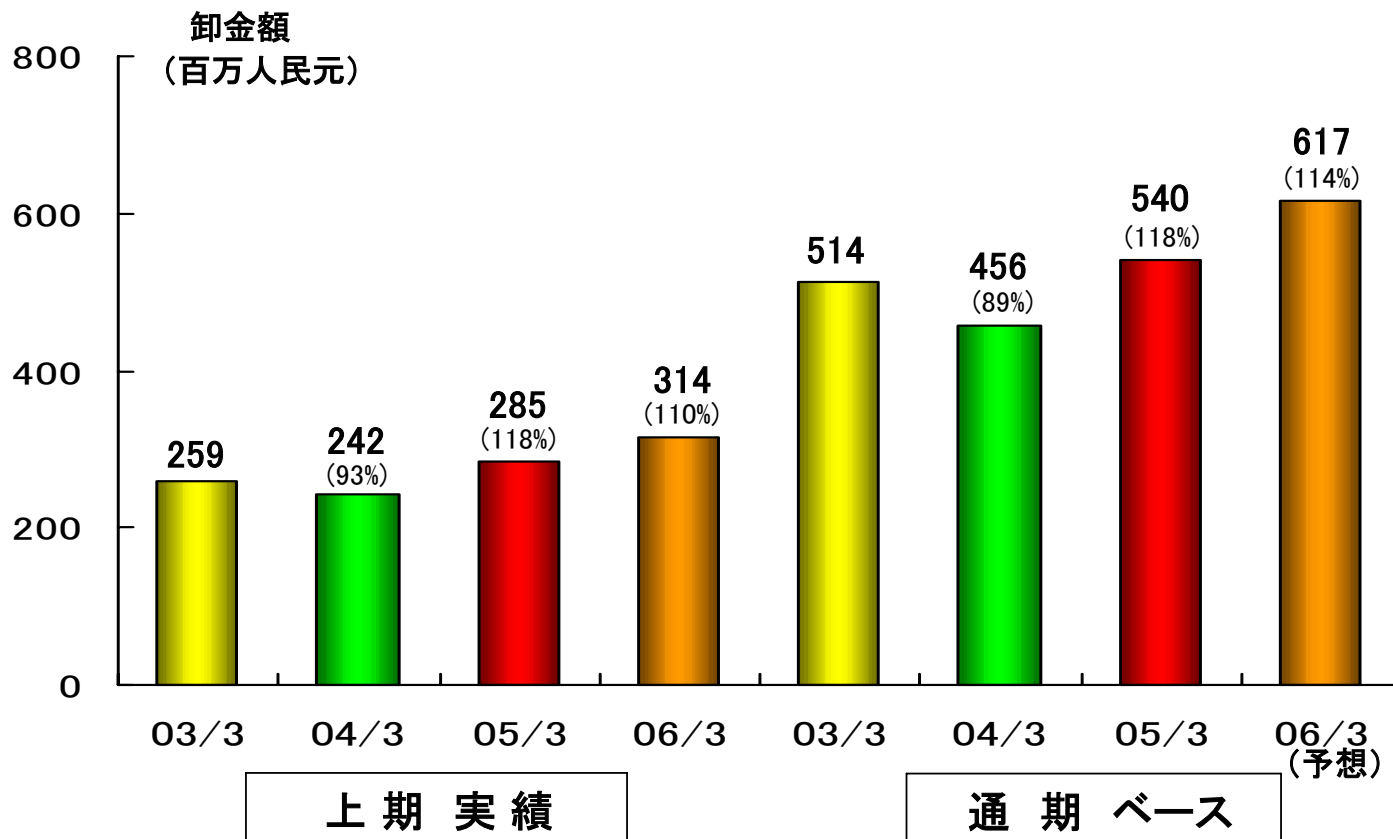


()内は前年同期比

中国市場のヤマハ楽器販売状況



ピアノは杭州製ピアノの増産で出荷増となるものの、中国製流通在庫増加し、単価下落の動き。PAIは8月末の放送機器展(北京)への出展が奏効しデジタルミキサーの販売が好調。11月に音楽教室(上海)開講。



()内は前年同期比

ホームシアター市場規模

(ホームシアターシステム+アンプ・レシーバー)

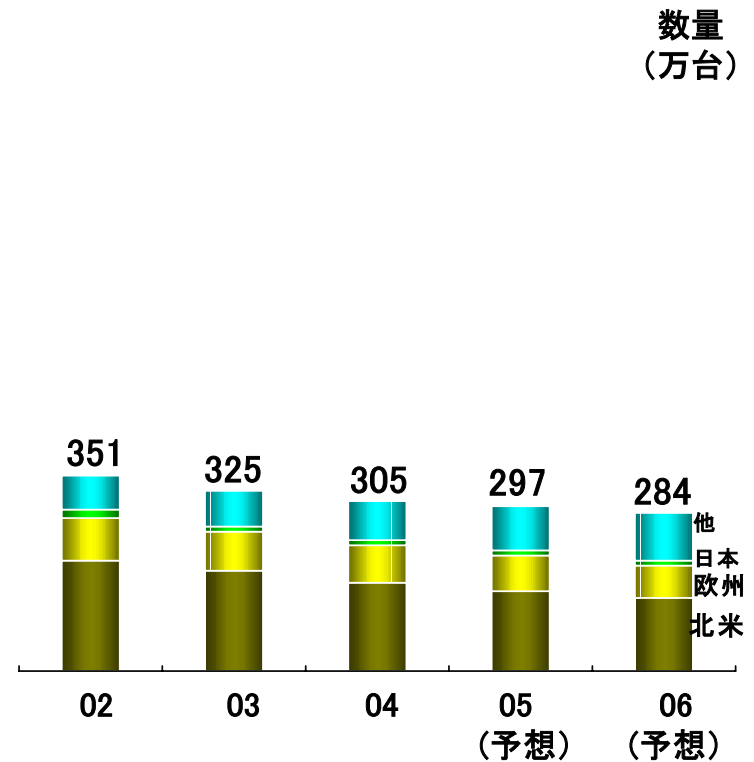
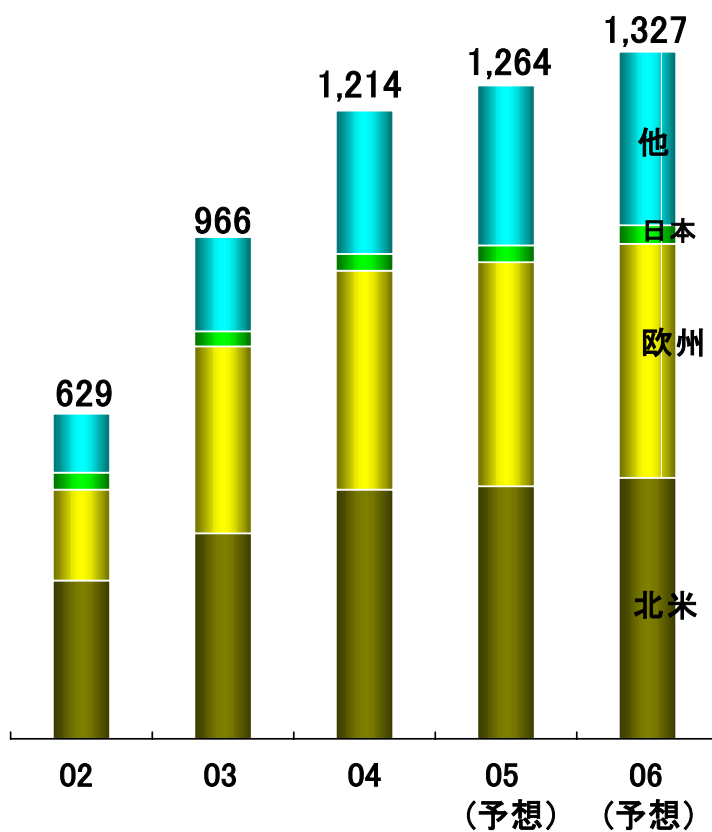


<ホームシアターシステム>

- ・北米: HTiB、DVD内蔵型とも伸び率が急激に落ち込み
- ・欧州: 主要国ドイツで昨年の予測以上に縮小傾向
- ・日本: 薄型テレビの普及に伴い薄型対応進行
- ・その他: 中国製がアジア、中東欧で大きく成長傾向

<AVアンプ・レシーバー>

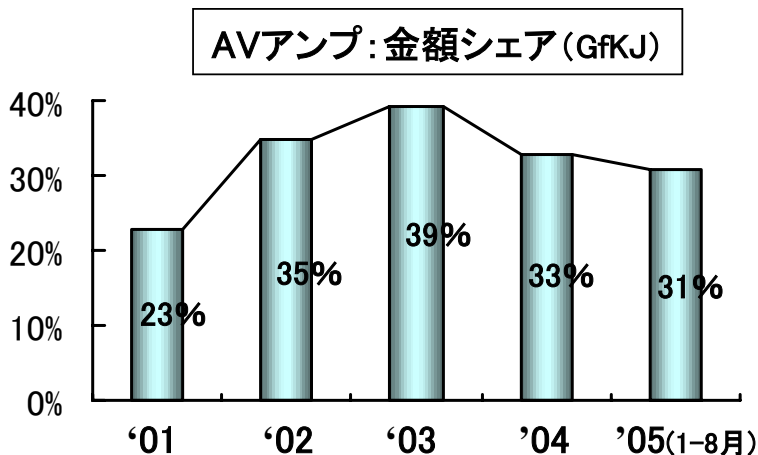
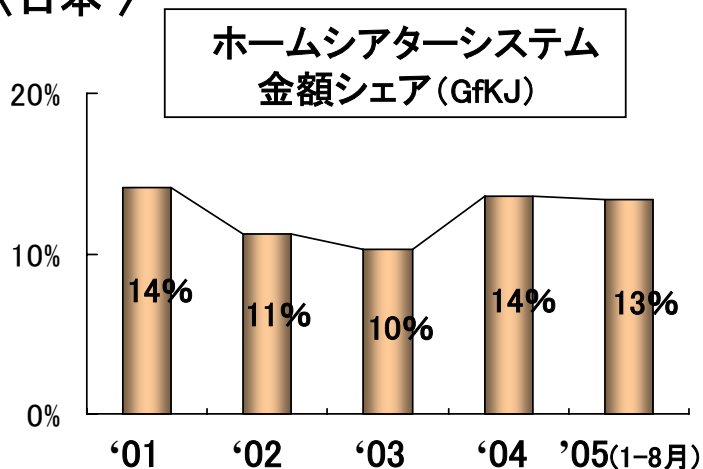
- ・北米: 台数ベースで約10%の減少予測。
- ・欧州: 市場は縮小傾向
- ・日本: 落としていたシェアを4~6月に回復(31%)
- ・アジア、中国: 市場拡大、パッケージ販売増加。



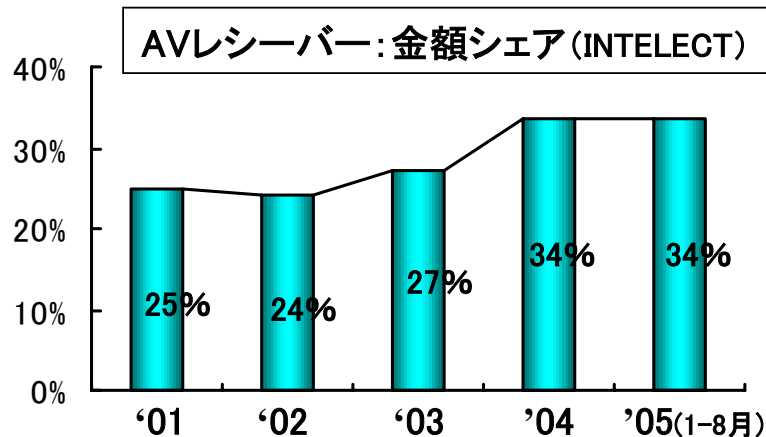
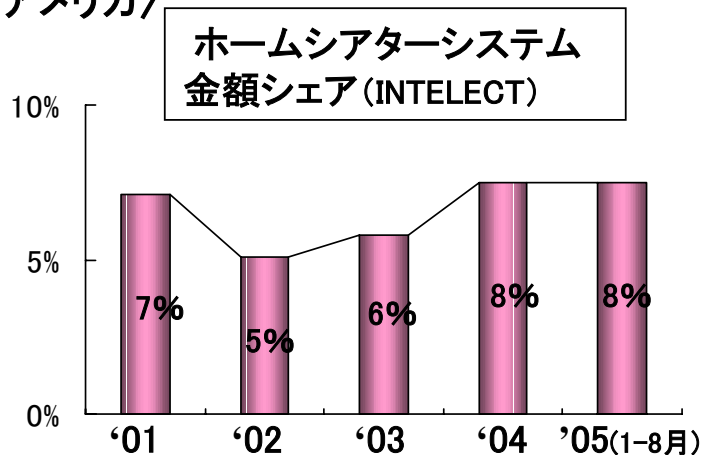
AV マーケットシェア



〈日本〉



〈アメリカ〉



この資料の中で、将来の見通しに関する数値につきましては、ヤマハ及びヤマハグループ各社の現時点での入手可能な情報に基づいており、この中にはリスクや不確定な要因も含まれております。

従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、米ドル、ユーロを中心とする為替動向等により、これらの業績見通しと大きく異なる可能性があります。